

## 「FREEDOM beach 2019」における 環境省“つなげよう、支えよう森里川海”プロジェクト 開催レポート

自然と触れ合うことを目的とした野外フェス「FREEDOM beach 2019」にて、来場者へ森里川海プロジェクトの普及啓発のため、トークステージやキャンペーンを実施

- ・開催日：7月21日（土）、22日（日）※22日は天候不良のため中止。
- ・会場：青島こどものくに
- ・参加者数：12,000人
- ・主催：GAKUON



### ■トークステージの開催

MINMI さん、同じく森里川海アンバサダーの小原壮太郎さん、プロジェクトチーム長である中井徳太郎総合環境政策統括官、そして出演アーティストである COLOR CREATION の皆さんにご登壇いただき、それぞれの自然体験について、また自然に対する想いについて、伺いました。

MINMI 「フリーダム、自由になるのに、自然ってすごく大事だと思っていて、雨を感じることを通してでも、自然の中で自分も自然の一部だって感じることで普段閉じている心とか、そういうのが一気に開くと思うんですよ。だから素直な気持ちで音楽が入ってきたり、家族にありがとうって思えたり、好きな人に好きって言いたいとか、いつもやっぱりみんなが作っている壁みたいなのが、自然が自然と取ってくれるって。」

中井チーム長「森里川海は自然の恵みのことを示していて、みんな自然の恵みに抱かれて生き

ている命なんだと。そこに戻らないとどうしようもないんじゃないかと。草の根の活動が重要と感じて、プロジェクトを立ち上げています。みんなの体も食べ物も水も空気も、自然の循環、全て生き物の世界、すべてが森や海からできている。そういうことを実感したら、ライフスタイルや経済、社会など難しいところも本当に根っこから変わるんじゃないかと。まさしくMINMIさんが、ずっと自然感を持ってアーティストとしてやってくれているところとコラボして、他のアンバサダーにも入ってもらい、一緒にやってもらっています。」

COLOR CREATION(JUNPEI さん)「僕は今まで自然に対しての意識とか持ってなかったんですけど、歌手なので喉のケアはすごく意識している。クーラーや暖房も一年通して自宅で使わないんですよ。今年の夏も扇風機だけで乗り越えているんですけど、なんかそれも今思うと少し環境のためになっていたのかと。」

MINMI：今まで消費社会で私たちは便利さを求めてやってきて、それを全部なくそうとか、モノを作るのをやめようとかではなくて、ちょうどいいくらいでできたらと。科学的、技術的な進歩も大事だし、どんどん便利になるものを求めるのも大事。今までは田舎暮らしの良いところを、多くの人が都会の便利さを求めて全部捨ててしまった。でも、良いところをどっちともとろうよっていうのがすごくいいなって思ってた。全部便利さを否定するんじゃなく、便利だけど、昔ながらの良さとか心地よさとかを取り入れていこうって。」

中井チーム長「自然と繋がっていくという感覚も、自分が気持ちいいとか快適とか、自分が良くなるということが環境を良くすることとつながっているんだよね。これからそういう世の中になると思う。でもこれは、一人一人がちょっとずつ、MINMIさんが言ったように、便利か便利じゃないかじゃなくて、便利の質や考え方、例えば、芝生で裸足になると気持ちが良いとか井戸水が美味しいとか、そっちが健康だみたいにシフトする感じで、より良い方に変わる感じが望ましいと考えます。」

COLOR CREATION(JUNPEI さん)「今日お話をお聞きして、一人一人の意識や力は微力でも、それぞれが少しずつ意識するだけで、この地球が大きく変わるきっかけになるのかなと、すごく感じましたね。」



※7月22日に予定していたMINMIさんとT-BOLANのボーカルである森友嵐士さんのトークステージは、荒天により残念ながら中止となってしまいましたが、別途対談形式で収録させていただきました。下記一部抜粋して掲載します。

森友さん「場所って、すごい影響力をもっている。自分の気持ちや心を自分自身でなんとかすることは難しいと思う。でも自然の豊かな場所に行けば、子供のころの解放された心だったり、自由な自分の感性、そういうものに気づくんだよね。人間も自然の一部。例えば、星を一つ見るのだって、ただ立って見上げる星と、地べたに寝転がってみる星じゃ全然違うわけだよね。それが体感。それと同じように、自分の体のある場所に移して、そこで何かを感じる。だからこそ何か気づきがあったり、共感として感じるができる。それがFREEDOMだと思う。海と緑と音の祭宴。

今までのライフスタイルを振り返った時に、自然からもらったものがすごい大きくて。俺が14年間歌えない時期があって。その時期、肉体的にも精神的にもすごく落ちてたのね。でもその中でもう一回歌を取り戻すためには、やっぱり歌えない歌と向き合うしかない。でもそれって一番きつい時間じゃない。その一番きつい時間と向き合った時に、本当に落ちて落ちて絶望的な気持ちになった時に、例えば人の言葉ってなかなか受け取れないし、自分でモチベーションあげようと思ってもあがらないし。

富士山の麓、標高1,200mのところのアトリエを持っていて、そこでずっと暮らしていた。そこでスタジオを出て、太陽の日差し、森、風、緑、野鳥の声、そういうものたちに触れた時に、自然に癒えてくわけよ。自然から何かをもらってるという意識は感じないけれど、表に出て、デッキに座っているだけで、だんだん気分が晴れてきて。気がついた頃には、もう1回挑戦しようかなという気持ちになっていた。最初はこれが自然からもらった力だとは思わなかったけど、結局、自分が落ちた時に(パワーを)もらっているのって、この場所(富士山麓のスタジオ)じゃんって。ここには何があるのかって考えたら、やっぱり自然が溢れていた。

この環境での生活を継続したからこそ、辛い14年間の生活を乗り越えられた。だからみんなを自然のある場所にみんなを連れて来たい。説明や言葉で教えることじゃなく、気づくことだと思うわけ。何も言わずに、本当は(こちらから)伝えなかったことを、そこにその人が来ることで、勝手に気づくよね。」

MINMI「自然の中で、溢れている生命のエネルギーを感じながら、音楽ができたらもっとみんなの心が開かれるはずと感じていて。普段言えないような照れくさいことも、自然の中なら素直に言える。子供の時の無心の感覚に近いと思うんですよね。大人になってできてしまった壁を取り払うことができると思って。普段から自然をおざなりにしながら、都会の中にいることを改めて振りいたいあって。自然の中で空をタッチしてみようと思うこと、芝生を感じることに『ごめんね、ありがとう』という気持ちFREEDOMの時には持とうと。(自然に)ありがとうって。」

映像でも一部、収録をしています。ご覧になりたい方は森里川海チャンネルへ。

<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/morisatokawaumich.html>

## ■持続可能なライフスタイルを作るヒント「#アーシングタイム」キャンペーンの実施

アーシングタイムとは“地球を感じる時間”のことです。自然とつながる時間は心と身体を元気にしてくれます。自然へのセンサーが磨かれることで、変化を敏感にキャッチできるようにもなります。普段の生活の中でも、自然との繋がりを意識した選択ができるようになるかもしれません。今回、会場に訪れた人に、自身の「#アーシングタイム」を撮影していただき、SNS（Instagramやtwitter）に投稿をよびかけました。



キャンペーンに参加された方の中から、MINMI さん、森友嵐士 (T-BOLAN) さん、山崎まさよしさん、SEAMO さん、NOBU さん、COLOR CREATION さんなどの豪華アーティストによるサイン入りグッズが 15 名にプレゼントされました。